



小川 敦生
Atsuo Ogawa

「ghost catcher」

僕はその街で迷子だ…かつてあれほど通った土地だというのに。
それはそうか、十何年か振りの来訪。地図に頼れば良いものを、古い記憶の隆起に願く。
そればかりではない、この道はさっき通ったような…と、今しがたの覚えまでもが妙な案内を買って出る。
街とは、そのような自分の／知人の／見も知らぬ者の記憶、印象の積層。
古から一瞬毎に重ねられてきた層のおそろしい深みの中、僕らは自らの「現在」を追って彷徨っているのかもしれない。
どうせ迷うなら、積極的に迷おう。
路地裏や空地で出交わす「驚き」こそが「現在」にもっとも近い層だろうから。
いっそ自らの手で新たな層を拵え、迷宮に更なる混乱をもたそう。
真偽の疑わしいものこそ、常に初対面顔で「驚き」を囁いてくれる。
そうやって雑踏の中ようやく追いついたのが自分の姿だった…というのは、まあ、お決まりの結びではあるけれど。
それこそが「現在」という幽霊だ。

小田原は重層的な歴史や文化の中で様々な変化が共生する土地です。柴田は、具体的な建造物や人の思念が残るようなものではなく、小田原の原風景でもあり、かつ自身が関わりを持つことができると考えた「海」に着目をしました。

《Sleeping Dog》は小田原・御幸ノ浜での取材で集められた映像の欠片を元に、それを再構成することで作られた映像作品です。この映像は前後のない二部構成となっています。解体し再び組み直すことは部分から全体へと進む柴田の表現プロセスであり、そのことは壁に掛かるドローイングの《Untitled》シリーズからも見るすることができます。

また、この展示方法は市街と浜の境界線となっている西湘バイパス、その高架下のトンネルから着想を得ました。ここでは切り取られた映像から、その先の広がりを想像できるように試みています。そうすることで逆説的に切り取る行為自体も考えることができるのではないのでしょうか。

テキスト：キュレーター 結城 鷹

月の綺麗な晩です。

落語 [小間物屋政談] の序盤です。
他にも、[抜け雀] [竹の水仙] [御神酒徳利] などの噺に小田原宿が登場します。
JR 小田原駅の発車ベルは、[お猿の駕籠屋] です。
彼らは、落ち葉のワラジを履いて、美人な狐を乗せています。
そんな事をヒントに制作を始めました。
有難いご縁でアトリエを小田原に移して早7年。
にぎやかな小田原の街には、友人や大好きな場所、観たものが登場します。
この夏、三島を舞台に絵巻を描きました。
[故郷の伊豆→三島→箱根→小田原城を望む] ものでした。今回は、その続編です。
高い天井に合わせて、150号キャンバスを連結した背の高い画面を作りました。

『陶と文章』

今年の6月だったか旧瀬戸米穀店に入らせて頂いた。不思議な時間だった。忙しく立ち働く人達の気配、声や表情や人いきれ。10年ほど使われていないのだと伺ったし、確かに埃に覆われてはいるのだけれど、かつての活気をたっぷり吸い込んで、この建物はまだ熱を持って生きている。好きな場所だと感じた。

この空間で、陶のオブジェと文章を対とした作品を展示します。
いつか何処かで見たいような心の情景が手を伝って粘土に流れ出る。
その形や佇みから私の知らない詩や物語が流れ出す。
この建物の記憶と私の作品、なにか交差する瞬間が生まれるかもしれない。

小田原は豊かな「記憶のノゾキミ」の土地と知り、今後ちょくちょく訪れる大切な場所になりそうだ。

私はこれまで様々な街で踊ってきました。好きが高じて、自分以外のダンサーやミュージシャンも招き、街を丸ごと舞台に仕立て上げる企画を8年ほど続けています。これまでに、吉祥寺、西小山、高円寺、仙川、中延、深川で…。街で踊るダンサーを見ていると、日常がいつの間にか侵食され、どこか不思議な世界の狭間に迷いこんでしまったような、そんな感覚に捉われます。あるとき、夕陽を背景に道端で毛虫のように踊る女性のダンサーを見たときに目の前の現実がゆっくりと皮を剥かれるような光景として映り、何かに許してもらえたような、何かを発見したような、清々しい、美しい感情に襲われました。それはダンサーの力量だけではなく、そこに居合わせた人々、空気、景色が絡み合って創り出した、時間芸術の奇跡とも言うべきものでした。以来、劇場から飛び出した踊りの魅力や、より沢山の人の目の裡に発見してもらいたいと思っています。そして今回、歴史の集積する小田原の街と共に、どのような踊りを生み出すことができるのか、とてもワクワクしています。特にここ小田原では、昨年より「スクランブル・ダンスプロジェクト」の講師を務めさせて頂き、深いご縁を感じております。小田原の何かききと私を強く引き寄せてくれているのだろう、自分の体の中でその答えを確かめるきっかけとなるかもしれない。街をキャンバスに、この場にしかない踊りを存分に楽しみたいと思います。



松岡 大
Dai Matsuoka

記憶の ノゾキミ

ODAWARA SHIROMACHI ART PROJECT
ART EXHIBITION & PERFORMANCE

ごあいさつ / INTRODUCTION



住 麻紀 / キュレーター

まち
知らない小田原との出会い方

このプロジェクトは、小田原の街中、特に観光ルートからは外れ、街の人の足も遠のきがちな昔ながらの商店街や歴史を伝える古い建造物と、現代アートのジャムセッションを行うものです。

今も昔も交通の要所で、首都圏とその外側を緩やかにつなぐ街である小田原には、確固とした街のアイデンティティがあるように見えます。しかし、他の地方都市と同様に、観光地以外の中心市街地が空洞化し、空き店舗が目立つという声も聞こえます。そんな中で、アートと街(建物、商店のみなさん、店構えなど、そこにあるものすべて)が呼応し合うことで、人々と街との接地面を広げ、知っているつもりだった身近な風景を見違えさせることができるかもしれない…このプロジェクトは、そんな企てです。

私は県外(と言っても二つ先の宿場・三島で、小田原は北条氏仲間と思っています)から参加する、いわば「親愛なる異邦者」で、今回参加する5組のアーティストも同様に、小田原と近い距離で関わりを持って作品制作に臨んでいます。現代に生きるアーティストから生まれる表現によって、様々なレイヤーで“街の記憶”が呼び起こされたり、重なったり、新しく作られたりする瞬間を、多くの方と共有したいと思っています。

4日間の短い間ですが、キュレーターと作家のクロストークやアートショップ、作品や街並みと絡み合うダンスパフォーマンスと、街の空気にアートの成分を注入します。街とアートを巡りながら、そこに染み込んだ様々な記憶を“のぞき見る”機会となれば幸いです。



■ … 作品展示会場
○ … スタッフオアシメ
よりみちスポット

1 オービックビル

展示作家：小川敦生さん
大きな鏡とショーウィンドーが目を引く、古着屋が入っていた空間。ガラス面に生み出す不思議なドロ잉がさまざまに重なり、新たな世界をのぞかせます。

2 旧松浦スポーツ店

展示作家：柴田純椰さん
スポーツ用品店だった建物。アーケードも取り壊され、当時とは一層雰囲気のあるこの空間。柴田さんによってどう生まれ変わるのでしょうか。

3 4 旧瀬戸米穀店

展示作家：横井山泰さん・m.yamさん
元はお米を精米・販売していた場所。横井山泰さんの不思議な油彩画とm.yamさんの生活感溢れる楽しいモチーフ。作品と空間の共演が作り出す世界を味わってください。

1 マツシタ靴店

履きやすく滑らない、メイドインジャパンのピーサン「ギョサン」のバイオニアとして全国的にも有名なマツシタ靴店。リーズナブルなお値段で鮮やかなギョサンがずらりと揃っています。

2 小田原市会館

昭和を感じさせる建築デザインは今もなお美しい。大ホール1、2階ホワイエの壁面には美術家集団・主体美術協会の会員で、児童書の挿絵でも活躍した西村保史郎氏の作品が。本館1階では熊さんもお迎え！

3 鐘楼「時の鐘」

お堀端通りを抜け、市民会館の脇を歩くと現れる大きな鐘楼。毎日なんと手動で鳴らしているというウサ。是非その目で真相を確かめてみてください。

4 伊勢屋

昭和10年創業の和菓子屋。小田原っ子はこのまめ大福で育つとも言われるほどの地元の味。和菓子の他、いなり寿司もあります。市内を走る伊勢屋さんの豆大福カーがかわいく評判。

5 スズアコーヒー

都内でも商品を提供している人気の焙煎珈琲店。厳選された豆を熟練の職人が焙煎してくれま。通りかかったら、良い香りに引き寄せられること間違いなし。

6 江嶋

江戸時代から続く老舗のお茶屋さん。昭和初期に建てられた趣のある建物は小田原の歴史を感じる佇まい。御茶処掛川のお茶と一緒に、かわいい紙や布雑貨も販売しています。

7 シセロシスコ

お堀をのぞむ小さな小さなお店。ドアを開けるとそこは彫金アクセサリーのアトリエ兼ショップ。お店の奥で造られるアクセサリーには、どれもこの世に二つとないストーリーが込められています。

イベント小粋筆記

審査員・アーティストクロストーク

アートの専門家である公募審査員たちによる解説や作家による自身の作品の説明などを行うクロストーク。話を聞くと作品を見る目が変わります。

日時：11月23日（土）15:00-16:30

会場：三区公民館★

登壇予定：参加作家、公募審査員（中野仁詞、平井宏典、小林絵美子、牛山恵子、住麻紀）

松岡大 パフォーマンス

世界で活躍する舞踏カンパニー山海塾の舞踏手である松岡大さんによるパフォーマンス。アートや街並みと絡み合うダンスはここでしか見られません。

11月30日（土）16:00-16:30

会場：旧瀬戸米穀店

12月1日（日）11:30-12:00

会場：オービックビル1階受付

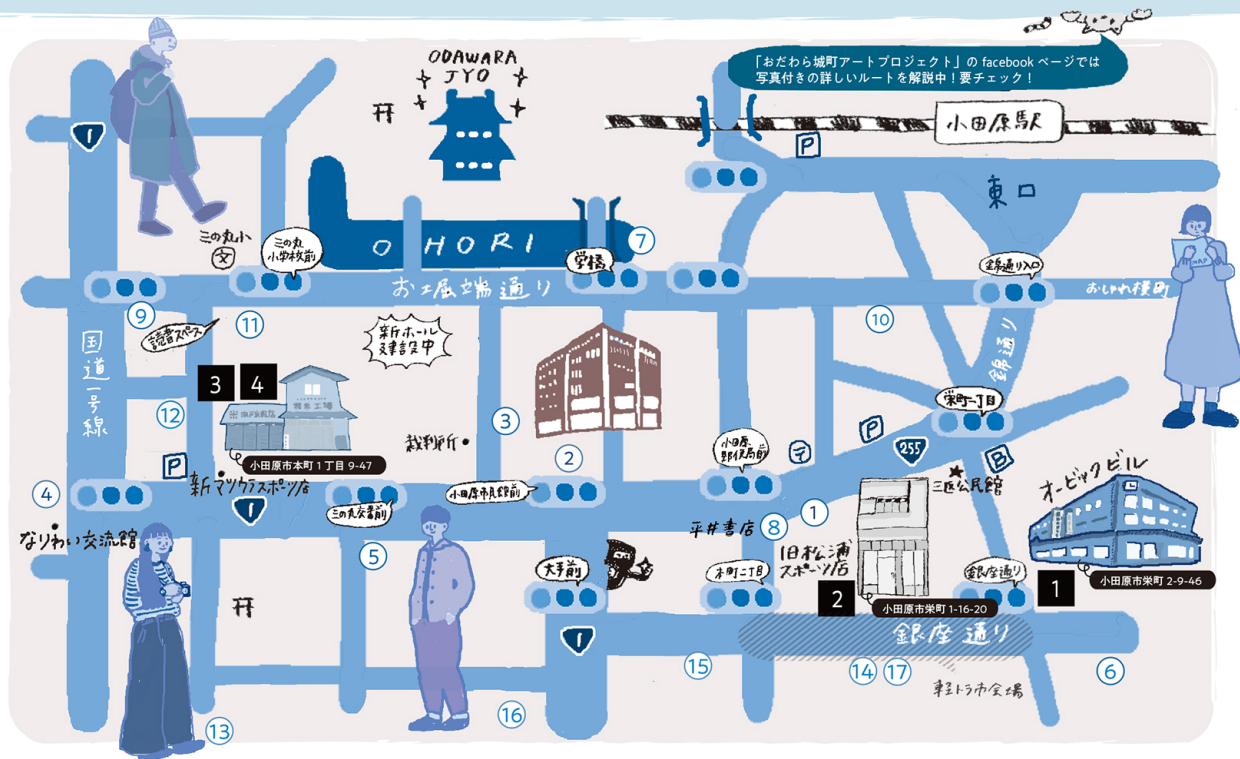
松岡大 クロッキー会

松岡さんをモデルにして、みんなでデッサンを描くクロッキー会。心身共に鍛えられた肉体はまるで彫刻像のよう。

12月1日（日）10:00-11:00

会場：オービックビル1階受付

※全て申込不要。時間までに会場にお越しください。



同時開催

SaMAL アートリンクキャラバン（芸術祭会議）
みんなの芸術祭会議 2019@小田原

日時：11月24日（日）16:00-18:00

会場：オービックビル

主催：相模湾・三浦半島アートリンク（SaMAL）

相模湾・三浦半島エリアのアートネットワーク「SaMAL」が小田原に「アートは地域に何をもちこたすのか？」をテーマにみんなで話し合います。

小田原まちなか軽トラ市

銀座通りにかつての賑わいを取り戻そうと商店街が立ち上げたお祭り。地元野菜や特産品がのった軽トラやキッチンカーが集まります。

日時：11月24日（日）10:00-13:30

会場：銀座通り

十字町ヒストリア特別企画展&呈茶

明治から大正にかけての政治家 松本剛吉とその時代についての展示をおこなうとともに、数寄屋風の主屋を公開。茶室「雨香亭」での呈茶もあります。

日時：11月23日（土）- 24日（日）10:00-16:00

会場：旧松本剛吉別邸（小田原市南町2-1-27、マップ外）

本ときどき茶々

紅葉が見頃の旧松本剛吉別邸でのんびりお茶を飲みながら本を楽しむ4日限りのブックカフェ。一箱古本市や、呈茶もあります。

日時：11月30日（土）- 12月1日（日）、7日（土）- 8日（日）10:00-16:00

会場：旧松本剛吉別邸（小田原市南町2-1-27、マップ外）

8 平井書店

地元住民が憩う街の本屋さん。店主は軽トラ市やブックトークなどを企画して街を盛り上げる仕掛け人。実は大のアート好き。今回のアート展でも多大な協力をいただいています！

13 すみれ cafe

かき氷とグリーンカレーが有名なお店。（かき氷は夏のみ提供。）小田原一の繁華街だった宮小路の一角、レトロな空間の中で味わうお食事は一層絶品です。

9 grit

もちもちの食感が楽しいブラジル生まれのパン「ボンデケージョ」や、ふわっとしっとりシフォンケーキなどを販売しています。コロんとした小さなパンなので、食べ歩きにもオススメ。

good music and life 14 cafe ももすけ

元・薬局のスペースをリノベーションして作った、店主セレクトのグッドなミュージックが流れている隠れ家的カフェ。陶芸家の奥様作のお皿でお料理を楽しめます。

10 土成町 cafe

小田原城を楽しんだら、お堀端通りを歩いてひと休み。小田原おでんや、「おさるのかごや城町おむすび龍膳」など名前も見た目もかわいいうちランチもいただけます。

15 君思ひ、花は微笑む

まるで生花のような美しいアーティフィシャルフラワー、ドライフラワーを使用したアレンジメントや壁飾り、ブライダルブーケ等を扱う専門店。ちょっとした贈り物にもぴったり。

11 アオイミネ

ワインとチーズの専門店。店主は、なんと「世界最優秀フロマージュコンクール2019」で世界3位に輝いたフロマージュ（チーズ職人）！ワインと食材のマリアージュを教えてください。

16 葉の花

箱根でも大人気の洗練された和菓子屋さん。お饅頭やどら焼きなどやさしい味のお菓子を食べるとほっとします。思わず友達に贈りたくなるかわいパッケージにうっとり。

12 LOBBY ODAWARA

昭和初期の建物「旧瀬戸たばこ店」が地域の拠点に生まれ変わりました。地元のデザイン事務所「デザインこねこ」さんが手掛ける、懐かしさもセンスあふれるセレクトショップ。

17 SHOKUXKURA 緑泉

女性にも人気の台湾料理のお店。奥まった入口を通ると笑顔が待っています。香辛料が効いた魯肉飯がおすすめ。フルーツを使った様々な台湾ビールも楽しめます。

のぞきMAP スタンプラリー



街なか4か所でスタンプを押してオリジナルグッズをゲットしよう。
オービックビルと
旧瀬戸米穀店で交換できるよ！



平井書店



旧瀬戸米穀店



旧松浦スポーツ店



オービックビル